

わたしの旅―山陽道・瀬戸内③

一杉 秀樹

大崎上島から再びフェリーで本土に戻る。もう船に興奮することもない。ジモミンに交じって平然と乗り込み、安芸津港に降り立ち呉線の旅を続ける。次の立ち寄りには呉である。

呉は言わずと知れた軍港である。が、主たる目的はアニメ「この世界の片隅に」の舞台を歩くことである。本来の旅とはズレるがそういうこともある。ここから知人が同行することになった。そのせいでもある。

町は空襲でコテンパンになったので、その昔の街並みを偲ぶようでは皆無であるが、バスと徒歩で「すすさん」の生家のあたりまで登った。新興の住宅地に阻まれ眺めはなかった。

大和ミュージアムにも足を延ばした。以前江田島に行き、旧海軍兵学校を見学したことがある。その流れで言えば当然である。しかしどうも感激しなかった。

何も残っていないと思っていた呉であるが、駅から少しのところに旧呉鎮守府司令長官官舎が戦火を免れ現存しているのには驚いた。閑静な一画で呉に行くなら是非お勧めしたい。

その晩は広島に泊り在住の旧友と居酒屋で飲んだ。風俗店が並んだりする夜の繁華街ではあるがこんな雰囲気は嫌いではない。特に寂れた島めぐりの後では。

翌日は岩国で途中下車である。錦帯橋は、「あんなものは写真で充分」と思っていたが、下から橋桁を眺めるとなかなか複雑精緻な作りであることがわかり、しばし見とれていた。橋を渡った先の吉香公園は橋より良かった。日本の歴史公園百選に選ばれるのも肯ける良い佇まいであり、多くのボランティアが作業に当たっていることにも好感がもてた。ロープウェイで岩国城まで登ってしまったのはついはずみである。再び山陽本線で柳井に向かう前に、駅前の店の雰囲気の魅力、ラーメンと稲荷ずしで昼食をとった。まるまる昭和風であった。

旧山陽道は広島からほぼ西へ、現山陽新幹線と重なる道筋であったのだが、山陽本線は岩国から先では大きく迂回して海沿いを走っている。理由は判らずじまいである。